
2009年度 決算説明会

2010年 5月11日



三菱ガス化学株式会社

本日の出席者

取締役社長

酒井 和夫

天然ガス系化学品カンパニープレジデント

山崎 慶重

芳香族化学品カンパニープレジデント

塚本 耕三

特殊機能材カンパニープレジデント

宮内 雄

機能化学品カンパニープレジデント

倉井 敏磨

財務経理センター長

杉田 克彦

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2009年度決算
2. 質疑応答

配付資料

- ・スライドコピー
- ・参考資料
- ・平成22年3月期 決算短信
- ・ニュース クリップング集
- ・アンケート用紙

連結 2009年度(実績)

【単位:億円】

	2009年度	2008年度	増減	増減率
売上高	3,845	4,476	▲ 631	▲ 14.1%
営業利益	41	▲ 31	72	-
(持分法利益)	(88)	(147)	(▲ 59)	▲ 40.2%
経常利益	74	70	4	5.6%
税前利益	75	53	23	42.8%
当期純利益	58	70	▲ 12	▲ 16.9%

➤ 販売数量は、メタノール、PCシート・フィルム、BT材料などが増加した一方、メタノール・アンモニア系化学品や特殊芳香族製品などは低調に推移。

➤ 販売価格は、原材料価格の下落に伴い、汎用品を中心として大きく下落。

➤ 単体売上高は▲311億円。
(数量要因:210億、価格要因:▲521億)

➤ PCシート・フィルムやBT材料の販売数量の増加に加え、芳香族製品を中心とした棚卸資産の簿価切り下げ額の減少などもあり、営業黒字に回復。

➤ 持分法利益は、海外メタノール生産会社を中心として大きく減少。

➤ 配当金は年間8円

D/Eレシオ	0.62	0.66	▲ 0.04	▲ 6.1%
ROA*	1.4%	1.2%	0.2%	16.7%
ROE	2.2%	2.5%	▲ 0.3%	▲ 12.0%
1株当たり 当期純利益	12.9円/株	15.3円/株	▲ 2.4円/株	▲ 15.8%
年間配当金	8.0円/株	16.0円/株	▲ 8.0円/株	▲ 50.0%

※ 本頁以下に記載されている数値は、単位未満四捨五入で表記しております。

* 経常利益ベース

セグメント別 連結 2009年度(実績)

【単位:億円】

	2009年度			2008年度			増 減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,808	2,038	3,845	2,692	1,784	4,476	▲ 884	253	▲ 631
天然ガス系化学品	551	605	1,157	880	629	1,509	▲ 329	▲ 23	▲ 352
芳香族化学品	441	517	959	793	428	1,221	▲ 351	90	▲ 262
機能化学品	554	648	1,202	726	539	1,264	▲ 172	109	▲ 63
特殊機能材	296	308	604	357	224	581	▲ 61	84	23
その他	5	6	11	6	5	11	▲ 2	1	▲ 1
消去または全社	▲ 39	▲ 48	▲ 86	▲ 69	▲ 40	▲ 109	30	▲ 8	23
営業利益	▲ 11	52	41	96	▲ 127	▲ 31	▲ 107	179	72
天然ガス系化学品	▲ 42	▲ 24	▲ 65	9	▲ 57	▲ 49	▲ 50	34	▲ 17
芳香族化学品	▲ 33	▲ 30	▲ 63	15	▲ 89	▲ 74	▲ 49	59	10
機能化学品	33	75	108	31	33	64	2	42	44
特殊機能材	28	30	58	42	▲ 19	23	▲ 14	50	35
その他	2	3	5	3	2	6	▲ 1	0	▲ 1
消去または全社	1	▲ 3	▲ 1	▲ 4	3	▲ 1	5	▲ 5	▲ 0

(参考)

持分法利益	25	63	88	108	39	147	▲ 84	24	▲ 59
-------	----	----	----	-----	----	-----	------	----	------

セグメント別 連結 2009年度(四半期実績推移)



【単位:億円】

	2009年度				2008年度			
	第4四半期	第3四半期	第2四半期	第1四半期	第4四半期	第3四半期	第2四半期	第1四半期
売上高	1,052	986	955	853	729	1,055	1,353	1,339
天然ガス系化学品	336	269	295	256	263	365	447	433
芳香族化学品	256	261	221	220	175	253	405	388
機能化学品	328	320	312	242	210	329	354	372
特殊機能材	154	154	146	150	95	129	176	180
その他	3	3	2	2	2	3	4	3
消去または全社	▲ 26	▲ 22	▲ 21	▲ 17	▲ 16	▲ 24	▲ 32	▲ 37
営業利益	41	11	10	▲ 21	▲ 125	▲ 3	44	52
天然ガス系化学品	▲ 8	▲ 16	▲ 7	▲ 35	▲ 46	▲ 11	17	▲ 9
芳香族化学品	▲ 8	▲ 22	▲ 26	▲ 8	▲ 56	▲ 33	▲ 1	16
機能化学品	39	37	24	9	▲ 4	37	7	24
特殊機能材	17	13	16	12	▲ 19	▲ 0	20	22
その他	1	1	1	1	1	1	2	1
消去または全社	▲ 1	▲ 2	1	▲ 0	▲ 0	3	▲ 2	▲ 2

(参考)

持分法利益	26	37	20	5	▲ 2	41	47	61
--------------	----	----	----	---	-----	----	----	----

連結 2009年度 営業外損益・特別損益

【単位:億円】

	2009年度	2008年度	増減
営業外損益	33	101	▲ 68
持分法投資損益	88	147	▲ 59
金融収支	▲ 8	▲ 4	▲ 4
為替差損益	▲ 10	▲ 13	3
その他	▲ 37	▲ 29	▲ 8

特別利益	24	3	22
投資有価証券売却益	19	-	19
その他	5	3	2
特別損失	23	20	▲ 3
減損損失	5	-	▲ 5
事業撤退損失	4	-	▲ 4
貸倒損失	4	-	▲ 4
海外投資計画変更損失	3	-	▲ 3
その他	7	20	13

(注)本表の増減は対損益増減を示しております。

連結 2009年度 貸借対照表

【単位:億円】

	2010年3月末	2009年3月末	増減	メモ
流動資産	2,181	2,153	28	
現預金	276	232	44	
売掛債権	1,041	745	295	
棚卸資産	620	653	▲ 33	
その他	244	522	▲ 278	
固定資産	3,213	3,153	61	
有形・無形固定資産	1,660	1,695	▲ 35	設備投資:276億円、減価償却:△295億円、除却等:△16億円
投資有価証券	1,305	1,215	89	理由:株価の上昇など
その他の資産	249	242	7	
資産合計	5,394	5,306	88	
負債	2,613	2,585	28	
買掛債務	565	403	162	
有利子負債	1,658	1,749	▲ 91	
その他	390	433	▲ 43	
純資産	2,781	2,721	60	
株主資本	2,920	2,917	4	自己資本比率 2010年3月末 49.9% 2009年3月末 49.9%
評価・換算差額等	▲ 228	▲ 268	40	理由:株価の上昇など
少数株主持分	89	72	17	
負債・資本合計	5,394	5,306	88	

連結 2009年度 キャッシュフロー計算書

【単位：億円】

	2009年度	2008年度	増減
営業キャッシュフロー	313	490	▲ 177
税前利益	75	53	23
減価償却費	295	289	6
持分法投資損益	▲ 88	▲ 147	59
持分法適用会社からの配当金受取額	92	154	▲ 62
運転資金等	▲ 90	258	▲ 348
法人税等支払額	28	▲ 117	145
投資キャッシュフロー	▲ 337	▲ 413	76
設備資金	▲ 305	▲ 369	65
投融資資金等	▲ 32	▲ 43	11
財務キャッシュフロー	▲ 154	115	▲ 269
借入増減等	▲ 93	195	▲ 288
配当金支払	▲ 60	▲ 79	19
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 4	▲ 39	34
現金及び現金同等物の増減	▲ 181	154	▲ 336
連結追加・合併による増加額	11	4	7
現金及び現金同等物の期末残高	360	531	▲ 170

天然ガス系化学品

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績)			2010年度(予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	880	629	1,509	551	605	1,157	783	792	1,576
営業利益	9	▲ 57	▲ 49	▲ 42	▲ 24	▲ 65	▲ 21	▲ 3	▲ 24

2009年度(実績)

➤ メタノール

新規プラント稼動に備えたプレマーケティングにより、販売数量は増加したが、平均市況(2009年1~12月)が前期の370\$/MTから195\$/MTに下落し、大幅減収。

持分法利益も大幅に減少。

➤ メタノール・アンモニア系化学品

需要の低迷に加え、トラブルによるアンモニア装置の二度の長期停止もあり、前期を下回る。

➤ 酵素・補酵素類

コエンザイムQ10は、販売価格は低下したが、高付加価値品を含む販売数量の増加や原材料価格の下落により改善。

➤ 天然ガス・エネルギー販売

原油の販売数量の減少と販売価格の下落により、大幅減益。

2010年度(予想)

平均市況は270\$/MT程度(前期比+75\$/MT)を想定し、大幅増収を予想。

持分法利益は、市況上昇と新規プラント稼働(ブルネイ、ベネズエラ)の数量効果で大幅増益を想定。

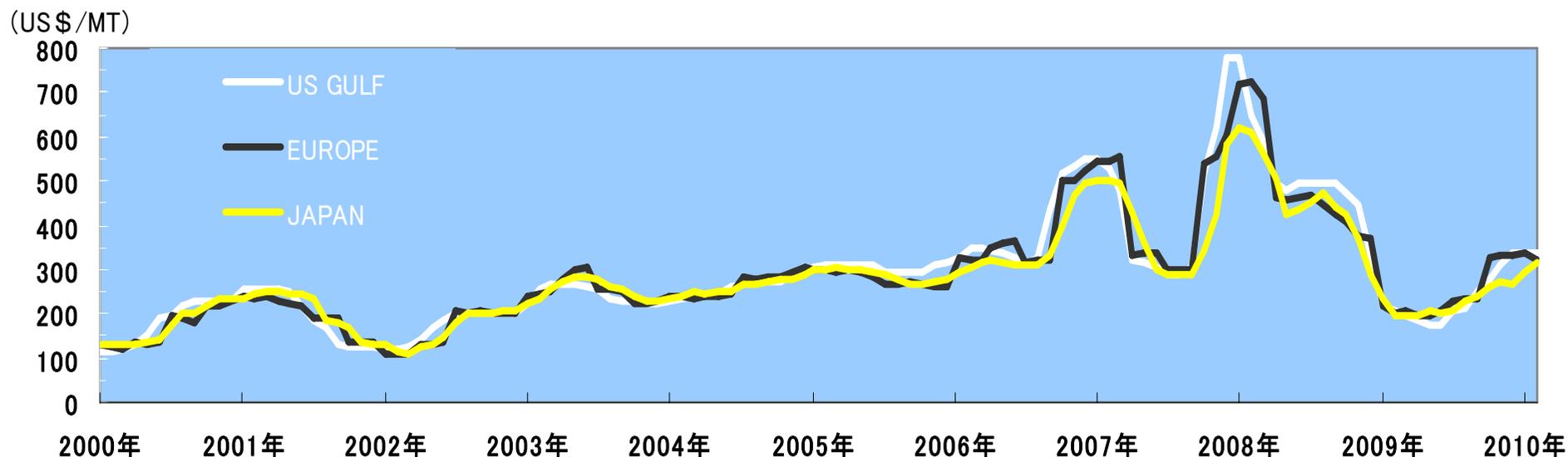
需要回復に伴う販売数量の増加や販売価格の是正による改善を見込むが、赤字にとどまる見通し。

高付加価値品を中心とする拡販により、前期を上回る計画。

原油の販売数量の回復と価格上昇により増益の見込み。

天然ガス系化学品

メタノール価格の推移



(2010年の展望)

需給動向: 需要面は、燃料用途を始めとする中国の需要拡大に加え、その他地域の需要も回復し、世界全体で増加。
供給面は、ブルネイとベネズエラ(各85万トン)、オマーン(100万トン)、エジプト(130万トン)の新規プラント稼働はあるが、需要増により概ね吸収される見込みであり、今後も中国の石炭原料プラントが、市況の水準に応じて稼働と停止を繰り返すと想定。

⇒ 価格動向: 新規プラント稼働の影響で、一時的に250 \$ /MTを割りこむ局面も想定されるが、中国の石炭原料プラントが調整弁となり、現在のエネルギー価格水準を前提として、市況は250～300 \$ /MTの範囲で動くものと予想。

天然ガス系化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタノール	<p>◇ ベネズエラ 85万t/y 試運転中 (2010年2Q商業運転開始予定) ブルネイ 85万t/y 試運転中 (2010年2Q商業運転開始予定) ⇒ 世界3極体制の確立 ⇒ 今後もメタノール事業のグローバル展開を拡大</p>	
スピログリコール(SPG) SPG-PET 「ALTESTER®」	<p>◇ 水島工場 1,500t/y (併産プラント) 2009年7月 商業運転開始 ⇒ SPGを原料とするSPG-PET「ALTESTER®」は、 食品・電子部品の包装材料として市場開発を推進</p>	<p>用途> SPG: ポリマー原料、 酸化防止剤など DOG: UV硬化樹脂など</p>
ピロロキノリンキノン (PQQ)	<p>◇ 米国で販売開始 ⇒ 2009年の”Nutracon”で最優秀賞を受賞したサプリメントに においてPQQが使用された ⇒ 市場の反応を踏まえ、将来の大型設備建設を検討</p> <p>※ ”Nutracon”とは米国における機能性食品、医薬品のトップレベルの 専門家達で構成された、学术交流・情報交流を行う全米最大のイベント</p>	<p>用途> 健康食品素材 (ブレインフード)</p>

芳香族化学品

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績)			2010年度(予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	793	428	1,221	441	517	959	572	583	1,155
営業利益	15	▲ 89	▲ 74	▲ 33	▲ 30	▲ 63	▲ 20	4	▲ 16

2009年度(実績)

▶メタキシレンジアミン、MXナイロン

上期のユーザー在庫調整による販売数量減少の影響が大きく、下期には需要が回復したものの、収益悪化。

▶高純度イソフタル酸

需要回復により販売数量は増加したが、供給過剰を背景とする厳しい競合からマージンは悪化し、前期を下回る。

▶その他特殊芳香族製品

芳香族アルデヒドなどの上期における販売数量の減少などから、減収減益。

2010年度(予想)

需要の本格回復により販売数量が大幅に増加し、前期を大きく上回る見通し。

需要拡大による販売数量の増加や販売価格の是正による採算改善を見込み、赤字幅が縮小すると想定。

芳香族アルデヒド、ピロメリット酸・無水ピロメリット酸の販売数量の増加などにより、増収増益の見込み。

※2009年度は、メタキシレンを中心として、棚卸資産の簿価切り下げ額が大きく減少し、約50億円の損益改善効果がありました。

芳香族化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタキシレン	◇ 水島工場 7万t/y 2009年10月完工 (2010年7月商業運転開始予定)	
高耐熱性無色透明 ポリアミドフィルム 「ネオプリム [®] 」	◇ フレキシブルディスプレイ、フレキシブル薄膜太陽電池向けに市場開発を推進 ⇒ 2012年度の本格商業化(月産10万m ²)を目指す	用途: 透明電極基板 (フレキシブルディスプレイ、光センサー、太陽電池等) 特徴: 高耐熱性、無色透明
高純度ナフタレンジカルボン酸 (PNA)	◇ 水島工場 900t/y 試運転中 ⇒ ナフタレンジカルボン酸ジメチルエステル(NDCM)事業の拡大を推進	用途: 液晶ポリマー原料 (コネクタ等の高耐熱性射出成形材料)
ガスバリア性接着剤 「マクシーブ [®] 」	◇ 食品包装フィルム用接着剤、酸素バリア性塗料、包装材料用特殊コーティング剤として実需化 ⇒ 2012年度の本格商業化を目指す	用途: 食品包装、工業材料包装ほか 特徴: ガスバリア性を備えた接着剤

機能化学品

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績)			2010年度(予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	726	539	1,264	554	648	1,202	663	662	1,325
営業利益	31	33	64	33	75	108	59	68	127

2009年度(実績)

➤ 工業用無機薬品

過酸化水素は、販売数量は減少したが、販売価格の是正などにより、増益。

➤ 電子工業用薬品

需要は回復基調で推移したが、前期に及ばず、減収減益。

➤ エンジニアリングプラスチック

PCは、国内販売価格の低迷により減収減益。POMIは、販売数量は減少したが、原料メタノール価格の下落により、減収増益。

PCシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ向けフィルム需要が好調で、増収増益。

2010年度(予想)

過酸化水素は、販売数量の増加により、前期を上回る見通し。

半導体・液晶向けともに順調に販売数量が増加し、増収増益を想定。

PCは若干改善する見通し。POMIは、販売数量は増加するが、原料メタノール価格の上昇を見込み、損益は前期並みの見通し。

PCシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ向け需要の好調は続くが、設備増設による償却負担の増加もあり、前期をやや下回ると想定。

機能化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向
過酸化水素	◇ 中国 江蘇省 張家港 3万t/y 2009年12月商業運転開始
電子工業用薬品	◇ 四日市工場 超純過酸化水素 1万2千t/y 試運転中（2010年2Q商業運転開始予定） ⇒ 山北工場、佐賀製造所に次ぐ国内3拠点体制を構築 ◇ 米国 超純アンモニア水 3千t/y 試運転中（2011年1Q商業運転開始予定） ⇒ 米国における半導体向け需要増大に対応
ポリカーボネート	◇ 中国 上海 10万t/y 建設中（2012年4月商業運転予定） ⇒ 素材生産、コンパウンド、テクニカルサービスの一貫拠点を構築
ポリカーボネート フィルム	◇ PCシートフィルム 2010年下期 増強設備稼働予定 ⇒ フラットパネルディスプレイ向け需要増大に対応
特殊ポリカーボネート	◇ 鹿島工場 特殊ポリカーボネート 400t/y 試運転開始 ⇒ 光学レンズ・フィルム用途へ展開
ポリアセタール	◇ 海外拠点での増産を検討中

特殊機能材

【単位:億円】

	2008年度(実績)			2009年度(実績)			2010年度(予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	357	224	581	296	308	604	324	312	635
営業利益	42	▲ 19	23	28	30	58	41	30	72

2009年度(実績)

➤ 電子材料

BT材料は、半導体パッケージ需要が期初に回復した後、大きな季節調整なく堅調に推移し、増収増益。高性能エポキシ材料は前期並みに推移。LEシートは、海外で競争が激化し、減収減益。

日本サーキット工業は、固定費削減等の合理化により、大きく改善。

➤ 脱酸素剤

国内食品分野の競争が激しく、前期をやや下回る。

2010年度(予想)

BT材料は、販売数量は増加するものの、販売価格の低下を見込み、損益は前期並みを想定。高性能エポキシ材料は販売数量の増加により前期を上回るが、LEシートは低調に推移する見通し。

日本サーキット工業は、コスト削減と高付加価値品の拡販により営業黒字への回復を計画。

国内食品分野は厳しい競争が続くが、輸出の増加により、前期を上回る見通し。

特殊機能材

電子材料売上高、世界半導体市場規模の推移



電子材料売上高	100.0	56.4	60.2	78.9	90.6	114.3	120.9	135.4	90.9	101.6	110.0
世界半導体市場規模	100.0	68.0	68.9	81.4	104.2	111.3	121.2	125.1	121.7	107.7	120.8

セグメント別 連結 2010年度(予想)

【単位:億円】

	2010年度(予想)			2009年度(実績)			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	2,200	2,300	4,500	1,808	2,038	3,845	392	262	655
天然ガス系化学品	783	792	1,576	551	605	1,157	232	187	419
芳香族化学品	572	583	1,155	441	517	959	131	66	197
機能化学品	663	662	1,325	554	648	1,202	109	14	123
特殊機能材	324	312	635	296	308	604	28	3	32
その他	5	5	10	5	6	11	0	▲1	▲1
消去または全社	▲147	▲55	▲201	▲39	▲48	▲86	▲108	▲7	▲115
営業利益	60	100	160	▲11	52	41	71	48	119
天然ガス系化学品	▲21	▲3	▲24	▲42	▲24	▲65	21	21	42
芳香族化学品	▲20	4	▲16	▲33	▲30	▲63	14	34	47
機能化学品	59	68	127	33	75	108	26	▲7	19
特殊機能材	41	30	72	28	30	58	13	0	13
その他	2	2	4	2	3	5	▲0	▲1	▲1
消去または全社	▲1	▲1	▲2	1	▲3	▲1	▲2	2	▲1

(参考)

持分法利益	60	70	130	25	63	88	35	7	42
-------	----	----	-----	----	----	----	----	---	----

連結 2010年度(予想)

【単位:億円】

	2010年度 (予想)	2009年度 (実績)	増減	増減率
売上高	4,500	3,845	655	17.0%
営業利益	160	41	119	291.1%
(持分法利益)	(130)	(88)	(42)	47.8%
経常利益	240	74	166	225.8%
税前利益	190	75	115	152.3%
当期純利益	140	58	82	140.2%

D/Eレシオ	0.72	0.62	0.1	16.1%
ROA*	4.2%	1.4%	2.8%	200.0%
ROE	5.1%	2.2%	0.3%	13.6%
1株当たり 当期純利益	31.0円/株	12.9円/株	18.1円/株	140.3%
年間配当金	8.0円/株	8.0円/株	—	—

* 経常利益ベース

- 為替前提 90¥/US\$。
- 全般に販売数量が増加し、売上高は655億円増加の4,500億円を見込む。
- 営業利益は、電子工業薬品の販売数量が増加し、PCシート・フィルムやBT材料が堅調に推移することに加え、芳香族製品およびメタノール・アンモニア系化学品も採算が改善することなどから、119億円増加の160億円。
設備投資計画の精査、修繕費の削減、生産効率の向上等の収益改善策を実行。
- 持分法利益は、海外メタノール生産会社を中心に42億円増加し、経常利益は166億円増加の240億円。
- 特別損益は、資産除去債務会計基準の適用に伴う損失や固定資産除却損等として、50億円程度の損失を織り込む。
- 配当金は第2四半期末・期末とも4円を予定。

配当の状況

		2010年度 (予想)	2009年度 (実績)	2008年度 (実績)
1株当り配当金	第2四半期末	4.0円	4.0円	8.0円
	期 末	4.0円	4.0円	8.0円
	合 計	8.0円	8.0円	16.0円
配当金総額	第2四半期末	18億円	18億円	37億円
	期 末	18億円	18億円	36億円
	合 計	36億円	36億円	73億円
1株当り当期純利益	期 末	30円97銭	12円89銭	15円30銭
配当性向(連結)	合 計	25.8%	62.1%	104.6%

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報IR部(大久保、西村)

TEL 03-3283-5041

FAX 03-3287-0833

<http://www.mgc.co.jp/>

<見通しに関する注意事項>

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

1. 各種指標推移(連結)

(単位:億円)

	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 実績	2010年度 予想
設備投資額	175	295	394	351	276	400
(うち第2四半期累計)	132	147	160	193	141	170
減価償却費	188	注) 198	注) 245	289	295	300
(うち第2四半期累計)	94	91	110	135	137	130
研究開発費	106	115	136	147	162	165
(うち第2四半期累計)	55	58	66	67	74	80
人員 (年度末時点)	4,466人	4,561人	4,686人	4,902人	4,920人	5,197人
一株当り 当期利益	71.0円	86.6円	87.0円	15.3円	12.9円	31.0円
ROA (総資産経常利益率)	9.5%	10.5%	10.2%	1.2%	1.4%	4.2%
ROE (自己資本利益率)	14.5%	15.0%	13.7%	2.5%	2.2%	2.5%
配当額	10.0円	14.0円	16.0円	16.0円	8.0円	8.0円
(うち第2四半期末)	4.0円	6.0円	8.0円	8.0円	4.0円	4.0円

注) 2006年度の減価償却費は、
特損に計上した88億円を除いた額となっております。

2. セグメント別 設備投資額・減価償却額(連結)

(単位:億円)

		2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 実績
設備 投資 額	天然ガス系化学品	26	62	56	107	69
	芳香族化学品	47	75	172	106	82
	機能化学品	69	87	74	91	86
	特殊機能材	32	70	92	47	38
	その他	0	0	0	0	0
減 価 償 却 費	天然ガス系化学品	45	46	54	64	71
	芳香族化学品	36	37	52	77	86
	機能化学品	71	80	96	97	89
	特殊機能材	35	36	42	51	50
	その他	0	0	0	0	0

3. 経営環境

	2005年度実績		2006年度実績		2007年度実績		2008年度実績		2009年度実績		2010年度予想		メモ
	上期	下期											
メタノール (US\$/MT)	270~290	250~270	280~300	370~390	370~390	360~380	460~480	290~310	160~180	220~240	260~280	260~280	
原料キシレン (円/kg)	69	83	99	96	108	103	122	56	72	73	78	78	公示価格
ビスフェノールA (US\$/MT)	1,200 ~2,000	1,000 ~1,300	1,200 ~1,600	1,600 ~1,700	1,800 ~2,000	1,800 ~2,000	1,800 ~2,000	800 ~1,500	1,000 ~1,300	1,200 ~1,700	1,500 ~1,800	1,500 ~1,800	主要平均CIF価格
ポリカーボネート (US\$/MT)	3,200 ~3,300	3,000 ~3,300	2,900 ~3,100	2,400 ~2,750	2,600 ~2,850	2,400 ~2,850	2,450 ~2,850	1,900 ~2,450	1,900 ~2,400	2,400 ~2,900	2,400 ~2,900	2,600 ~3,000	
為替 (円/US\$)	110	117	115	119	119	109	106	95	96	90	90	90	

※メタノール市況については、上期は1-6月、下期は7-12月を示す。